生しいたけ

経営規模

○しいたけ……2棟
○まいたけ……4棟
○水　稲……9ha
○大　豆……147a
○そ　ば……40a

▶3年連続1等賞を獲得した生しいたけ

加藤　晃子さん（60）

（藤里町根城岱）

積み重ねてきた経験と技術が生んだ、県内外に誇るしいたけ栽培

平成23年から25年まで、種苗交換会の農産物展示『生しいたけ』部門において、1等賞（秋田県知事賞）を3年連続で受賞し、23年にはJA全国中央会長賞、24年に最高賞の農林水産大臣賞、25年には県市長会長賞にも輝いている加藤晃子さんは、今回の種苗交換会でその功績を称えられ、顕彰者として表彰されました。

菌茸栽培を夫婦で行うようになってから、20年以上が経ちました。栽培当初から県内外の勉強会に通って知識を深め、品質向上を積み重ねた結果、全国の菌床生産者大会でも毎年表彰を受けるなど、秋田県を代表する生産者となりました。菌床しいたけは短期間、低コストで大量生産できるのが特徴で、一辺が20cmほどのブロックにしいたけ菌を接種し、温度管理された施設内で90日ほど培養します。この時期は、夫の博正さんがハウス内の温度調節用の薪集めを行い、しいたけの世話を晃子さんが担当し夫婦二人三脚で8千個の菌床を栽培しています。温度調節用の薪は、地元の友達から間伐材や解体した建物からわけてもらっており、加藤さんは「この薪があるから、栽培を続けてこられたんです。地域の仲間に感謝ですね。」と笑顔で話してくれました。

こだわりの栽培方法について加藤さんは「毎日ハウス内の温度、湿度などに気を配り、一つ一つブロックを確認し状態に応じた対応を心掛けています。例えば生育を促すために、ブロックを水に浸けて置く時間を調整したり、ブロックによってひっくり返すタイミングを変えるなど様々な取り組みを行っています。でも一番大切なのは、何より子どもを育てるように、愛情を目いっぱいかけることです。」と教えてくれました。

最後に顕彰を受けた感想と今後の目標について伺うと、「これまでの取り組みが間違っていなかったと証明されて嬉しかったのと同時に、ホッとしました。2年連続受賞の後、お祝いの言葉を周囲から頂けてうれしかった反面、3年連続受賞のプレッシャーがどんどん大きくなったのを覚えています。このプレッシャーと闘って受賞できたことは、本当に貴重な経験となり、しいたけ栽培の自信に繋がりました。これからも日々勉強し、この経験を糧にさらなる栽培技術向上を目指していきます。」と力強く話してくれました。